

< Vol.31 の記事 >

合宿 無事終了！ 事務所（クラブハウス）を探しています！

【ユース 夏のリーグ終了】

今夏は比較的涼しかったとは言え、まだまだ試合にはつらい時期ですが、浦和SCユースは関東クラブユースリーグ（第7回）グループリーグ全4戦を無事戦い終えました。結果は、以下のとおり、残念ながら全敗となりました。

vs 関南	2 - 1 0	（群馬県玉村）
vs 湘南	1 - 4	（西遊馬）
vs アジア	0 - 6	（日の出町）
vs トリプレッタ	0 - 3	（駒場サブ）

今年度から45分ハーフが導入されたこともあり、1・2年生が主体の浦和SCユースは、後半残り20分頃からの大量失点が目立ち、体力不足を痛感したようです。

2次予選には、トリプレッタ（渋谷）湘南（藤沢）が進出することになりましたが、駒場サブで行われたグループ首位のトリプレッタとの試合では、かなりの接戦を演じており、遠征や天候、ピッチコンディションによってチーム状態がかなり影響される傾向がみられました。同グループとなった4チームはいずれも春のリーグ戦で2部昇格のプレーオフに残ったチームであり、3部（18チーム）の中でも強豪ぞろいあり、残念ながら待望の勝利をあげられませんでした。今後にむけた良い経験としていっていただけることでしょう。



トリプレッタとの最終戦

【夏合宿 濃霧に悩まされる・・・】

JYの代表決定リーグ進出や、ユースのリーグ戦の日程などの関係で、なかなか日程が決まらなかった夏合宿ですが、8月27～29日の2泊3日で、今夏もバラキ高原（群馬県嬲恋村）で行いました。

過去2年は、週末にかけて日程を組み、生涯有志が同時に行われる社会人大会に参加するなどして、いろいろな面でバックアップしていましたが、今回は平日の実施となり、ユース、ジュニアユースだけの合宿となりました。

濃霧の影響で練習が中止になるなど、やや天候に恵まれなかったようですが、全員大きな怪我もなく無事終了しました。



やっと晴れ間の出た最終日



夜はBBQ

【選手 痛い1敗！ 残り2戦 必勝を！】

8月23日、FCオブラと対戦した選手コースは、0 - 2と昇格争いの上で痛い敗戦を喫しました。突如の猛暑に加え主力3名を欠き、全体にリズムがかみ合わないままとなってしまったようです。けっしてゲームを支配されていたわけでもなさそうですが、対戦相手によって、うまくかみ合わなくなってしまうことがあるようです。

経験を積むためには、練習試合を増やしていくことが必要かと思いますが、そうするとグラウンドの確保がますます大きな課題となってきます。

とにかく、残り2戦、皆さんも応援を！！

【クラブハウスがほしい！！！！】

NPO法人の申請にむけて事務所(クラブハウス)にできるような部屋や空き店舗(倉庫などでも可)を探しています(NPO法人の申請においては事務所の所在地を明記して登記することが必要で、変更するためには登記費用がかかってしまいます)。

これまで事務局自宅を事務所としてきましたが、クラブ管理の物品の収納や、各種会議の場の確保などにおいて、とても不便を感じています。会員の情報交換、指導者の打ち合わせなども、常設のクラブハウスがあれば、行いやすくなると思います。

空き店舗や倉庫でもかまいません。活動場所を考慮すると、北浦和駅東口地域が望ましいと思います。どなたか、適当な物件をご存知の方は、事務局までご一報ください！！

情報 お待ちしています！！

【スポーツNPO法人による公共施設管理】

総合型地域SCの全国的草分けである愛知県半田市の成岩(ならわ)SCでは、成岩中学校の体育館の運営管理をまかされてきました。さらに今年度、体育館の改修にあわせてSCのクラブハウスが(体育館の施設の一部として)建設され、この運営管理を成岩SCが受託することとなりました。

クラブハウスの維持管理にかかる費用は基本的には市が負担することとなっていますが、成岩SCは、この施設を用いて、生涯スポーツの振興と地域教育力の向上を図るための総合型地域SCに係る事業を展開することが義務付けられています。

このように、地域のスポーツ団体が公共のスポーツ施設の運営・管理をまかされる事例は、このほかにも塩釜市の塩釜FC(加藤久さんの出身クラブ)などがあります。塩釜FCは、数年前に社団法人となり、今では市のサッカー場の運営管理をまかされるほどになりました。

このように民間(市民)の力を、公共施設の運営管理などに活用しようという試みは、全国のあちこ

ちで始まっています。

ご近所の志木市では、「市民との協働による行政運営推進条例」を本年6月1日に施行しました。これは、「市民の有する知識経験及び能力を活かした行政運営を展開するため、市民との協働による行政運営の基本的な事項を定め、活力と魅力に満ちた自立する都市の創造に資すること」を目的していますが、この中で注目すべきは、市内を拠点に社会貢献活動に取り組む市民団体を「行政パートナー」と位置づけ、市の仕事の一部を任せるという手法を実現したことです。

図書館や公民館、道路や公園の維持管理といった仕事を、時給700円で行政パートナーに委託するそうです。NPOと行政の協働の第一歩として注目すべき取り組みだと思います。

先々は、NPO等がそこで事業をやることで、月給が20万とか30万とかになるような職員が雇用できるような権限(運営の裁量)を与えられるようになると、もっと素晴らしいと思います。

先日開催されましたスポーツ産業学会の全国大会には、多くのスポーツ系の専門学校生や大学生が出席し、スポーツをいかに産業として育てていくか、熱い議論が交わされていました。理念(スポーツの普及)と一致した活動をすることが、そのまま職業にもなる社会環境をつくることで、彼らの雇用創出、自治体の赤字財政の改善や公共サービスの充実、さらには低迷した経済の活性化にもつながるものと言われていました(これまでの日本は、物質文明社会と言われてきました。大量に物を作り、購入し、廃棄することで経済が廻ってきましたが、今や物があふれてしまったことで、お金が廻らなくなっています。物に価値を求めてばかりいた結果、環境は悪化し、経済は停滞しています。物ではなく、サービスや余暇にお金を支払うことで経済を活性化させることもできるのです)。

浦スポのサッカー広場の試みも、子ども達に環境を提供するというもののほかに、公共施設の有効活用(より多くの人が使えらる)という点で、大きな意味があることと考えられます。

浦スポも、今年度中のNPO法人の取得を目指していますが、スポーツの普及に関連して、行政が手の届きにくい事業などを行っていくことで、スポーツにかかわる人を増やし、明るく楽しい社会づくりに貢献していければと考えています。

浦和SCニュースは、クラブ内の情報交換を図ることを目指して発行していますが、外部へのPRにもどんどん利用してください。必要があれば部数をお送りします。事務局までご連絡ください。

HPでは、ニュースをカラー配信しています。